

序章 将来の丹波市の環境イメージ

里地里山の保全・再生と循環利用



丹波市産材を使用した住宅が増え、
家庭では薪ストーブや薪ボイラーが普及し、
木質バイオマスエネルギーの
利活用がすすんでいます。

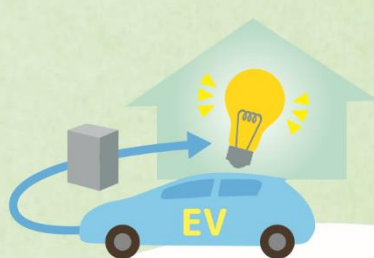
市内の広い面積を占める
森林の管理に携わる人が増え、
森林のもつ多面的機能や
防災力の向上が図られています。



質の高い農産物の生産が増え、
丹波市産の農産物が今まで以上に注目され、
市場価値が高まっています。
女性や若者が担い手として活躍し、
農家の生産意欲が向上しています。



資源を大切にするライフスタイルの定着



市内では電気自動車が増え、
自動車としての役割のほか、
住宅用蓄電池としても活用されています。
公共交通の利用者が増え、
運輸部門での二酸化炭素排出量の割合が
減少しています。



市民一人ひとりに5R※の意識が定着し、
適正なごみの分別が行われ、
使えるものや再生利用されるものも増えて、
ごみとして出されるものは減ってきています。

※5R…これまでの3R≪廃棄物の減量化(Reduce)、
再利用(Reuse)、再生利用(Recycle)≫に加え、
不要なものはもらわない(Refuse)、
修理して使う(Repair)を加えた考え方。



環境に配慮した事業者が増え、
地球温暖化防止の意識が定着しています。
従業員への環境教育も定着しています。



半世紀ほど前までは、ごく普通の暮らしの中で、燃料には薪炭を、素材には里山の草木を用いてきました。しかし、灯油やガスの普及、大規模流通網の発達、大量生産・大量廃棄型の生活様式の定着などにより、里山と市民の関わりが薄れ、自然環境や生活環境に大きな変化をもたらしました。

私たちの環境をより良くし、将来世代に引き継いでいくためには、環境の現状と課題を見据えつつ、将来の丹波市の望ましい環境像を思い描くことが大切です。そして、私たち一人ひとりが、望ましい将来の姿をめざして一步一步取り組んでいくことが、環境を良い方向へ向かわせるに違いありません。

快適で安心して暮らせる環境の保全



多くの市民や事業者が率先して地域の美化活動や環境を守る活動に参加し、とても美しい気持ちの良い風景・自然環境が広がっています。

豊かな自然環境の丹波市へ田舎暮らしを求める移住者が増え、空き家が有効に活用されています。



自然資源や農林業を活用したニューツーリズムが盛んになり、市外からの観光客が増え活気にあふれています。



人の輪で育む環境づくり



環境教育や美化活動にかかわる人々が増え、地域のコミュニティも活性化しています。



自然環境や生態系について研究が進み、環境保全体等が保護活動を行っています。



市民一人ひとりが環境問題を自らの問題として関心をもち、子どもから大人まで環境についての情報を得たり、学んでいます。

子ども達は周りの大人たちに導かれながら山や川に入って自然を学んでいます。

